

(3) 男性の育児参加

親はじめを支援する「ブックスタート事業」

新潟県長岡市企画部企画課

(H17.4.1 現在人口 234,822人)

TEL 0258-39-2746

FAX 0258-39-2747

メールアドレス

ホームページ

will@city.nagaoka.niigata.jp

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/will/>

○ 目的・概要

長岡市は、平成13年3月に「男女共同参画基本計画」を策定し、「男女共同参画によるまちづくり」をめざしている。

長岡市のブックスタート事業は、男性の子育てへの参加や男女の地域社会活動への参加を促進することにより、市民が「男女共同参画」について具体的な取組みを通して理解し、理解が行動につながっていくことを目的とする。

事業は、平成15年10月に開始。平成16年度の実績は、1,780組の赤ちゃんとその保護者に事業を実施。事業への参加率は、約97%。参加した市民ボランティアは延べ230人。

内容は、「5・6か月の赤ちゃん相談」の最終コーナーで、図書館司書や市民ボランティアが、赤ちゃんと絵本を通して楽しい時間を分かち合うことの大切さを伝え、読み聞かせの実演もしてみせる(1対1)。さらに、「みんなで子育てを応援しています」というメッセージを、6冊の絵本の中から選んでもらった1冊に添えて贈る。オリジナルのアドバイス集や男女共同参画関連情報、子育て支援関連情報も提供する。平成17年度対象者は2,300人程度の見込み。

○ 特徴

- (1) 男性の子育て参加支援…男女がともに参加する子育てのはじめの一步を支援する。
育児は母親固有の役目という固定観念にとらわれず、男性が積極的に育児に参加することの意義をブックスタートによって具体的に提案する。
- (2) 連携…男女共同参画を主管する企画課を中心に、図書館、健康課、児童福祉課、生涯学習課等の各部署が運営や情報提供で連携し、市民とも企画の段階から連携している。
- (3) 市民参加…ワーキンググループ、造形大学生によるアドバイス集デザイン等、企画の段階から市民と連携。事業実施についても約80人の市民ボランティアの参加を得ている。また、男女共同参画の内容を盛り込んだボランティア養成講座を毎年実施し、理解と支援の輪の拡大に努めている。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

- (1) 連携
年間2,000人を超す対象者にきめ細かい行政サービスを実施することは、費用対効果や人的体制において、単独部署では事業実現は困難である。しかし、長岡市全体から見ればブックスタート事業から得られる効果は大きく、多方面に進展が期待できる。そこで、実現に向けて関係課をはじめ市民による強固な連携の確立に努めた。
具体的には、情報収集、シミュレーション、ワーキンググループ設置等による実施側の理解と意欲の形成である。
- (2) 周知と理解…長岡市のブックスタートは、男女がともに家庭や地域や長岡市を作っていく意識を啓発しようとする事業であり、単に赤ちゃんとその保護者だけが行政サービスを受けるといった事業ではない。
このため、市民をはじめ行政職員にも「長岡市のブックスタート」と、そこに込めるねらいを理解してもらうことに努めた。
具体的には、市内100か所での「好きな絵本アンケート」、市政だよりでの特集、市民と行政によるワーキンググループ設置、市民ボランティア養成講座開催、職員研修「ブックスタートで元気なまちづくり」実施等で、事業の準備段階からだれもが参加できる事業として周知、理解に努めた。また、事業準備段階から発行し始めた「ブックスタート・レター」を、対象者だけでなく職員研修、出前研修、子育て支援イベント、図書館事業等で広く配布することにより、幅広い層への周知、理解に努めている(年4回発行、各2,000部)。長岡市男女平等推進センターでは、ブックスタートを紹介するコーナーを常設している。また、地元の造形大学生にデザインを依頼し、男女共同参画の視点をいれたアドバイス集「みんな いっしょ」を作成し、絵本に添えて手渡している。

○ 平成17年度における予算額・従事する職員数

予算：2,967千円

従事する職員数：企画課2人／図書館2人(いずれも、専任ではない。)

○ 取組による効果、参考データ等

- (1) コミュニケーションが不足しているとか、苦手という社会的な風潮がいわれている。直接話すことができる場があるということは、話す当事者にとって理解しあえるという大きな効果がある。ブックスタート事業では、男女がともに参加する子育てを推進し支援するという地域社会の姿勢を、1対1の直接会話の中でわかりやすく伝えることができる。特に、長岡市では、赤ちゃん相談の場に両親と一緒に来るケースが1割程度あり、そういうカップルには三者で一緒に話すことによりさらに効果が上がると考える。
- (2) 毎回実施しているアンケートからは、父親や家族とともに子育てをするという考え方や、地域の子育て支援の輪を知ることによって、母親が孤立感から開放されていく様子もうかがえる。(アンケート回収率は、ほぼ100%)
- (3) 行政内の連携により、効率的に、確実に情報が伝達できる。たとえば、男女共同参画関連講座やイベント、相談の場の案内、地域の子育て支援情報、図書館情報などを、的確な相手にタイムリーに渡すことができる。このことは、関係事業の利用率、参加率が上昇していることに少なからず影響していると思われる。
- (4) ブックスタートにかかわる市民には、子育てや孫育てを経験した女性が多い。また、母子福祉推進員として活動している女性も多い。ブックスタートは、これらの女性が自分の経験や得意なことを生かして地域社会の活動に参加することができる場を生み出したといえる。
- (5) ブックスタートにかかわる市民の中から、「布の絵本」をつくるグループが生まれ、このグループから提供された「布のおもちゃ」は、ブックスタート会場でも活躍している。絵本を介して市民レベルの交流が市内外に広がっている。(桐生市等)

長岡市は平成17年4月に5町村と合併し、平成18年1月にはさらに4市町村と合併する。長岡市が「男女共同参画によるまちづくり」を進めていくためには、行政職員をはじめ市民全体が気持ちを合わせて新しい長岡市の形成にかかわっていくことが不可欠である。ブックスタートは、合併と同時に旧市域から各新市域に「出前」で実施している。この、旧市域から新市域へのメッセージが、「男女で」「みんな」新しいまちづくりを進めていくことへの理解と行動を生み出している。

○ 今後の課題・方向性

- (1) 課題…平成18年1月の合併をもって長岡市は人口約277,000人の新長岡市になる。新長岡市民のほとんどは、家庭や職場において、昨年の水害、震災、豪雪による被害を受けており、生活スタイルは、都市型、農村型、中間型が混在する。また、10市町村が合併した新長岡市では、男女共同参画推進に向けての理解度や取組み方は地域差が大きい。
これらのことから、ひとつの事業であっても地域の特性をふまえたきめ細かな運営をしていく必要がある。(実施場所、市民ボランティア養成、提供する情報等)
- (2) 方向性…地域の特性をふまえた運営と、市民力を生かした運営を目指す。また、市民が自分の得意なことや好きなことで、生き生きと社会参加ができる場としてもブックスタート事業を位置づけていく。市民力の展開や成長を支援する。

○ その他特記事項

赤ちゃんがいて、絵本がある場において怒る人はいない。サービスを受ける市民も、提供する側の市民も実にいい笑顔である。アンケートのメッセージからも「感謝」「意欲」「安心」がうかがえる。こういう場で「男女共同参画」の考え方を発信していくことは、男女がともに家庭や地域を築いていくことが「当たり前」のこととして理解してもらいやすいと実感する。特に、意識啓発においては非常に効率がよいと考える。

父子手帳交付事業

新潟県十日町市総合政策課

(H17. 4. 1 現在人口 63,768 人)

TEL 025-757-3111 (内線 231)

FAX 025-752-4635

メールアドレス th-sogo@city.tokamachi.niigata.jp

ホームページ http://www.city.tokamachi.niigata.jp/

○ 目的・概要

国の男女共同参画社会基本法に基づき、旧十日町市では平成 13 年 3 月に「とおかまち男女平等プラン」を策定し、真の男女平等のまちを築くために、3 つの大きな目標、5 つの基本課題とそれに伴う基本目標を定め、行政の取組を明らかにしました。

本事業は基本課題Ⅱの「職業生活と家庭生活等との両立支援と男女平等の推進」の基本目標「男女の家事・育児・介護等の分かち合いの促進」に基づき実施するもので、「父子手帳」を交付することにより、育児への父親の参画を支援し、父親になることの心構えや、人生の大切なパートナーとして男女が協力していくことを意識付け、最終的には父親の育児休暇取得まで意識向上を図っていこうとするものです。

○ 特徴

「父子手帳」は第 1 子だけではなく、第 2 子以降の父親にも配布しています。

事業としては 2 つに分かれており、妊娠中の母親に対し実施している「ハローママスクール」に参加した父親で希望者に配布する事業と、「出生届」と「乳幼児医療費助成」手続きに来庁した父親に配布する事業から成っています。

前者は妊娠期間中からの父親としての心の準備を中心に、後者は出産後の育児や子供の成長についての内容になっています。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

「父子手帳」の内容が、育児の第一歩として気軽に読んでもらえるものであること、父親が育児へ積極的に参画するために利用してほしいことを窓口担当者が一言伝えるなど、父親に直接交付する際、「育児」とのかかわりを意識づけるよう対応しています。

○ 平成 17 年度における予算額・従事する職員数

予算：71,000 円

従事する職員数：乳幼児担当保健師等が窓口で対応していますが、当番制のため一人が従事しているものではありません。(総数では約 40 人)

○ 取組による効果、参考データ等

平成 15 年 7 月から本事業を実施し、半年後に交付者にアンケート調査（回収率は 18.1%と非常に低調）を行った中で、回答者の意見としては「非常に参考になった」「わかりやすく読みやすかった」「育児に興味・関心を持たせるためには効果的」等肯定的な意見が多く寄せられました。昨年度については、アンケートは実施していませんが、交付時に「必要ない」という意見は聞かれませんでした。今年度も継続事業として取り組んでいますが、再度アンケート調査を実施し効果について検討する必要があります。

○ 今後の課題・方向性

本年 4 月 1 日に 5 市町村で新設合併しましたが、旧十日町市が策定した「とおかまち男女平等プラン」を、新市でも継続して取り組んでいます。

旧町村での事業実績がない本事業については、直接市民の方に交付するため、全市域での統一した取組が必要です。支所での反応を含め、「父子手帳」の効果の有無や、父親が育児へ積極的に参画するための意識付け、趣旨普及のための効果的的事业について再度アンケートを実施し、今後の取組の参考としていきます。